提言第19号　肺動脈カテーテルに係る死亡事例の分析　第1部 開心術編／第2部 検査編
事例5
＜事例概要＞ 肺動脈カテーテル縫込み ① 60 歳代、女性、身長150 cm台。大動脈弁狭窄症の患者。大動脈弁置換術施行。抗血栓薬の使用は無。 ② 右内頚静脈より肺動脈カテーテル挿入を試みたが肺動脈まで挿入できず、右房内にとどめた状態で手術を開始。 ③ 術中、下大静脈カニューレ挿入部、逆行性心筋保護カニューレ挿入部、左房・左室ベントカニューレ挿入部、上大静脈カニューレ挿入部に糸掛けを行った。弁置換後、術野で肺動脈カテーテル挿入を再度試みたが、経食道心エコーでカテーテル先端を肺動脈内に確認できず閉胸（縫込みの確認未実施）。 ④ 閉胸後、X線透視で右房内の肺動脈カテーテルのたわみを確認。約10 cm ゆっくりと引き抜いた直後、心嚢・前縦隔ドレーンより血液が大量流出。緊急開胸止血術で右心耳近傍から下大静脈近傍まで損傷を認め縫合閉鎖。肺動脈カテーテルをすべて抜去しようとした際に抵抗を認めたため、上大静脈を切開すると、肺動脈カテーテル先端から約5 cm の位置に組織片が縫合糸とともに残存しており、縫込まれていたことが判明。術後、低酸素脳症、多臓器不全に至り回復せず、手術から約4か月後に死亡。 ⑤ 死因は、右房壁損傷による出血性ショックを契機とした多臓器不全。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。